

真日本武道空手道連盟

大会規約

* 本大会は、スポーツではなく、日本古来の武術・武道を追求する大会である。(高校生～一般部男性)

| | |
|------|--|
| 勝敗 | * 一本勝ち／技有り2本で合せ一本勝ち／技有り多数者の勝ち／有効ポイント多数取得選手の優勢勝ち |
| 一本 | * 反則箇所を除く部分へ突き・蹴りが瞬時に決まり動けない時、ダウンした時、技有り後に動けない時「一本」とする。 |
| 技有り | * 反則箇所を除く部分へ突き・蹴りが瞬時に決り、その打撃のくい込みで頭部がのけぞった時、そのダメージにより一時的に戦意喪失となった時、ダメージで膝や手を床に着いたり一瞬動きが止まった時、足掛けなどで相手を倒し極み突き・蹴り(顔面・胴体の直前)を決めた時、蹴りを受け足を引きずった時「技有り」とする。 |
| 有効 | * 反則箇所を除く部分へ突き・蹴りが瞬時に決り、頭部がのけぞった時、連続攻撃が適格に急所に決った時、互いの攻撃が相打ち又時間差で当たった時、又、胴防具着用選手への突き蹴りが適格に決った時、身体へのダメージがあると判断された場合は「有効」とする。 但し、面防具の表面をかすった面上部(額部分)への打撃、軽いくい込みの無い打撃は不十分とし「無効」とする。 |
| 有効技 | * 追い突き、順突き、逆突き、肘打ち、ジャブ、アッパー、フック、前蹴り、廻し蹴り、横蹴り、三日月蹴り、後蹴り、膝蹴り後廻し蹴り、蹴りや足払いで倒してからの極み突き蹴り、試合の流れから一瞬の引っ掛けでの膝蹴りなど。 * 顔面への有効打撃部分は、(アゴ・鼻・コメカミ)とする。「額⇒ヒタイ」は、頭突きが出来る事から「無効」とする。 |
| 禁止技 | * 締め技、つかみ、投げ、タックル、背後から攻撃、倒れた選手への(金的、後頭部・上頭部・首・耳)への直接攻撃や面背後の紐つかみ、引っ掛け、自ら場外に出た場合は、相手の「有効1」とする。その他審判が反則とみなしたとき。 |
| 特記事項 | * 判定は、有効数より技有りを優先する。打撃が決り、主審、副審の死角となり見落とした場合は、審判長が上記規約の技術ポイントを加えることができる事とする。 |

| | |
|------|--|
| 注意事項 | * 技有り・有効取得後、故意に場外に逃げたり、試合場内をフットワーク等で逃げきりをし、戦う意思がないと判断された場合相手選手の「 技有り、又は有効 」となる。但し、捌きの運足(ステップ)はこれにあたらぬ。 * 相手を突き、引き手(残心)をしても、フォロースルー(打撃のくい込み)がない場合は、有効打とならない。 * 攻撃されるままに、場外(マット外)に出た場合は、相手選手の「 有効1ポイント 」とする。 * 突き・蹴り後に、当たつとするアピールは武道大会に相応しくない為、相手選手の「 有効1ポイント 」とする。 * 試合中に、打撃の応酬で面がずれ固定されない場合は、主審判が試合を止め面をつけ直し試合を続行する。 * 試合中の負傷で試合続行不可能と判断した場合、相手選手の勝ちとする。 * セCONDが審判・相手選手に対し武道精神に反する中傷発言応援があった場合、選手は「 失格、応援者は退場 」となる。 |
|------|--|

| | |
|------|---|
| 判定 | * 審判は、無防具を前提に判定をする。試合終了時、技有り・有効の多い選手の勝ちとする。 * 副審判は、主審判の死角や打撃の見落としを常に補助する。又、大会審判長が有効打撃と認めた場合は、有効ポイントとする。減点1が有った選手は、相手選手の有効1相当とする(本戦の減点は延長戦に持ち込まない) |
| 延長 | * 互いに有効打同点・又は、ない場合、延長とする。延長での勝敗は、有効打撃「 先取一本勝ち 」とする。 最終延長戦に於いて、互いに差がつかない場合、身体指数の数値が少ない選手を勝者とする。 延長は、1回戦は1回、2回戦から決勝までは2回までとする。 |
| 減点 | * 悪質な反則や試合態度を続け審判の指示に従わない場合、「 減点1とし、相手選手の有効又は技有り 」となる。 * 減点2で失格となり、相手選手を勝者とする。 |
| 失格条件 | * 試合中 審判の指示に従わず、粗暴で悪質な試合態度。 * セCONDが相手選手や審判に対し暴言中傷し、武道精神に反する応援があった場合。 * 出場時刻に遅れた場合、試合を理由なく放棄した場合。 * 大会主治医の診断を受け、その結果試合続行不可能と診断されたとき。 * 試合中、本人(家族等)に関する不慮の事故等が発生したとき。 * スポーツ安全保険に未加入で大会参加が発覚したとき。 |
| 防具 | * スーパーセーフ面・ファウルカップ・パンチンググラブ・布製足サポータ着用。 * 面・胴・パンチンググラブは、主催者が用意。 * 足サポータ・ファウルカップ・マウスピース(必須)・インナーグラブ又は手袋は、個人で用意する事。 * 胴防具は、選手の希望で使用を許可する。(任意で選択) * 拳へのテーピング・バンテージは禁止。手首へのテーピングは2巻きまでとする。 |
| 試合時間 | * 試合時間 一般部3分／決勝戦一般部5分、延長は1分30秒とする。 |
| 安全性 | * 武道・武術本来の技が発揮できる試合とするためにセーフティ防具着用とする。 |